

<水球陣>関東学生リーグ第5戦

H26.6.4 対国際武道大学 @専修大学生田プール

東大 3 1 2 3 計9

国武 4 3 2 5 計14

得点者：山田 (4)、谷口 (1)、岡 (3)

ここまで順調に勝利を積み重ねてきた東大。だが、今回の相手である国際武道大学は今までとは違って、一筋縄ではいかないだろう。インカレ出場のために上位リーグで倒さなくてはならない格上の相手に対して、どこまで戦えるか。東大の真価が問われる。

第1ピリオド

国武がセンターボールを奪い、第1ピリオドが始まる。試合開始直後、国武がいきなりハンツートを決める。さらに、国武はパスカットからのカウンター、フリースローからのシュートを立て続けに決め、あっという間に東大を引き離す。嫌な流れを断ち切りたい東大はタイムアウトをとって態勢の立て直しを図る。だが、タイムアウト後も国武の流れが続く。国武のプレスが強く、東大は思うようにパスが回せない。逆に国武は素早いパスで東大を翻弄。退水セットからさらに1点を追加し、差を広げる。苦しい展開が続く中、この状況を打破したのは岡。フリースローからのハンツートを決め、1点を返す。息を吹き返した東大は、山田が豪快なミドルを決め、さらに退水の誘発から、藤目のパスを受けた岡がハンツートを決め、一気に一点差にまで迫ることができた。

第2ピリオド

東大がセンターボールをとって第2ピリオドが始まる。序盤で山田の放ったシュートはわずかに逸れ、ポストに直撃する。そのこぼれ球を岡が拾い、シュート。ついに同点に追いつく。だが、国武も負けじとペナルティースロー、退水セットを決め、東大の勝ち越しを許さない。このピリオドは両者ともにディフェンスの集中力を切らさず、なかなか点数が決まらなかった。

第3ピリオド

このピリオドの先制点を奪ったのは東大。カウンターで抜け出した山田が2対1を冷静に決め、2点差へと詰め寄る。なんとか同点に追いつきたい東大であったが、国武にカウンターで連取を許し、逆に点差を広げられる。両者とも得点が決まらない時間が続いたが、ディフェンスの意表を突く形で裏へと抜けた岡が池亀からの長いパスをもらい、鮮やかなシュートを決める。東大が意地を見せ、このピリオドは引き分ける。相手と3点差で最終ピリオドへと突入する。

第4ピリオド

国武がセンターボールをとって第4ピリオドが始まる。開始直後、パスカットに成功した東大。山田がカウンターを決めて2点差に詰め寄る。だが、国武もフローティングからシュートを決め、逆転を許さない。東大は積極的にカウンターからシュートを狙うも、キーパーに阻まれる。一方の国武はカウンターをきっちりと連続で決め、点差を広げる。東大も退水を誘発して谷口が上か

らシュートを決めるが、国武にミドルを決められ、振出しに戻る。試合終了の時間が近づくなか、山田がフリースローからシュートを決めるも、追加得点はないまま、試合は終了した。

第1ピリオドの前半に一気に4点を失い、終始追いかける展開となってしまったが、その後すぐに1点差まで詰め寄るなど、流れを完全に失うということにはなかった。今回の試合は負けてしまったが、同時に勝算がないわけではないということを確認することができた試合であり。東大は上位リーグでの雪辱を誓った。最後になりましたが、監督を務めてくださった疋田さん、忙しい中応援にいらしてくださった吉田さん、田丸さん、阿内さん、ありがとうございました。

(文責 荒川祥吾)